

学位論文審査基準

人間文化研究科

専攻名	学位論文審査基準
言語科学専攻 (博士前期課程)	<p>[修士論文]</p> <p>修士論文の当該専門分野における精深な学識と研究能力とを示すに足るものをもって合格とする。その判定は以下の基準に基づいて行う。</p> <p>(研究テーマ、研究目的の適切性) 研究のテーマや目的が明確であり、学術的な意義を有していること。</p> <p>(研究方法の適切性) 先行研究を踏まえており、研究のために必要な文献、資料等を適切に収集、分析、処理していること。</p> <p>(論証の適切性) 論旨の展開が明確であり、整合性を有していること。</p> <p>(専門性・学術的貢献) 専攻分野における研究能力および専門性を有する職業等に必要とされる高度の学識を有すると認められること。また、新たな知見や独創性が備わっており、主張に学術上の貢献が認められること。</p> <p>(形式的適切性) 学位論文としてふさわしい形式(注記、引用、文献リスト等)を有し、文章表現や表記、図版、表などの使用が適切であること。</p> <p>(倫理性) 研究者倫理が守られていること。</p> <hr/> <p>[特定課題研究]</p> <p>特定課題研究は、当該専門分野一般について、広範な学識と研究能力を示すに足るものをもって合格とする。ただし成果物および、その目的と学術的ないし社会的意義を論じた成果報告書を併せて提出すること。審査委員会は修士論文と同様に構成され、特定課題の成果物と成果報告書について総合的な審査を行う。その判定は以下の基準に基づいて行う。</p> <p>(課題の目的の適切性) 課題設定の目的が明確で、学術的または社会的意義が認められること。</p> <p>(方法論) 課題に対して斬新かつ妥当な方法によってアプローチされていること。</p> <p>(成果物と報告書) 専攻分野の専門性や新たな知見を反映し、学術的または社会的貢献が認められること。</p> <p>(倫理性) 研究倫理にかなった研究であること。</p>